



看護師・医療スタッフのページ

ロタウイルスの話題

細菌検査室検査技師 平 幸長

ロタウイルスは世界中で普遍的にみられる最もありふれている下痢症の原因の1つですが、小児において重篤な下痢を起こし罹患患者の10%は入院になります。地域差はありますが全世界で毎年60万~80万人が亡くなっていると考えられています。

主に11月~5月に小児を中心に罹患します。容易に脱水を起こすため、2歳以前の乳幼児、3ヶ月~3歳までハイリスクになります。感染経路は便に大量のウイルスが排泄しているため容易に感染が広がります。感染防御のために念入りな手洗いが必要です。

症状は一般に感染後3日たって発症します。発熱と腹痛・嘔吐が先行し下痢を起こします。水溶性の下痢で白色便で、酸臭があります。重症な下痢は脱水に至り、無治療では死に至ります。

神経症状として下痢を伴う良性けいれ

ん、脳炎・脳症、髄膜炎、出血性ショック脳症症候群、壊死性脳症の報告もあります。

治療は、特異的な治療法は開発されていませんが症状がありましたら早めに来院して下さい。当病院では、簡単な検査で診断可能です。感染しましたら体内の水分が失われる脱水症の予防が大切です。下痢で失われた水分を経口的に補いましょう。電解質も失われているので、電解質を含むイオン水や湯冷まし、ミルクなど、少し暖めて飲むとよいでしょう。嘔吐をしないように少しの量を何度も分けて与えましょう。嘔吐で飲み物が飲めない場合は、点滴治療が必要となりますので、下痢と嘔吐が同時に起こった場合は早めに受診しましょう。

脱水が高度になると生命にかかわる重篤な合併症であることを忘れてはなりません。



★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。